

貴族院元副議長東久世通禧

貴族院元副議長東久世通禧

法部局  
第一號

十七

貴族院元副議長東久世通禧歳費給否、件大蔵大臣、  
再三照會、經宸終、回答、於、本人ハ召集、應レタル  
者、非ハル、故、以テ歳費ハ支給セサルコトニ定メラレタリ  
然ル、各議院ノ正副議長ハ議院法第十一條第十三條第  
十五條ニ明記セル如ク、閉會中ニ於ル議員ト同視スルコトヲ  
得サルハ言ヲ待タス例セハ衆議院議長、如キ在職中  
議會閉會ノ間院務ヲ指揮スルハ勿論任期満限ニ達  
スルモ次會召集ノ當日マテ議場ニ出席シ正副議長ノ  
選舉ヲ行ヒ當選者ヲ上奏シ後任者ノ勅任セラル、ト  
同時ニ解職セラル、モノナリ貴族院議長ノ如キモ亦然リ  
議會閉會中又ハ後任者ノ勅任セラル、マテ院務ヲ指揮シ  
ツ、アルニモ拘ハラス議院法十九條但書ニ據リ歳費ヲ支給  
甲一

貴族院

セサレハ甚々其當ヲ失スルノ嫌ヒナキ能ハス何トナレハ議長ノ  
議會閉會中又ハ任期限後教ケ月間院務ヲ指揮スルモ  
ト議員ノ每期召集ニ應シ始テ議員ノ職務ヲ執ルモノトハ  
自カラ同一ヲサレハナリ東久世元副議長ハ當時ノ議  
長故障アルニ方リ樞密顧問官ニ轉任スルマテ院務ヲ  
指揮セルモノナレハ前述ノ場合ト敢テ異ナル所ナレ而シ  
テ議院法中正副議長ノ職務ニ關ル各條文ノ精神  
ヲ推敲スルニ第十九條但書ハ正副議長ニ適用スヘキモ  
ノナルヤ否ヤ未タ疑團氷解セス且本件ハ將來議院ノ  
成規慣例トナル義ニ付特ニ此論議ノ上何分ハ指揮相  
成度ハ参考ノ爲メ別紙書類相添此段及具申候也

明治廿五年二月十五日

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貴族院書記官長金子堅太郎



本院元副議長東久世通禧義ハ廿四年七月廿一日樞密  
院顧問官ニ任セラレ八月一日議員辭職セル者ニ有テ  
左邊右歳費支給方ニ儀召集、左セル議員ニハ  
歳費ヲ支給セストノ明文有テ得共副議長ハ議長  
故障アルハ議會閉會ノ間、於テ仍其議院ノ事  
務ヲ指揮スルモノニシテ右當月マテ本院事務局ニ  
出務セル以上ハ議長副議長議員歳費及旅費支  
給規則第九條ニ據リ歳費支給シ可然哉聊々疑  
義相生レ及此問合ニ至急何分ニ此回答有テ度也

明治廿四年十二月十日

貴族院書記官長金子堅太郎 印

大藏大臣伯耆松方正義殿

二  
號

乾第  
六四五三號

十二月十日貴乙第六七號休照會元副隊長東久世  
通禮殿費之件右八支給未成可然以殿及所  
作也

明治廿四年十二月十四日

大藏大臣伯耆松方正義殿

貴族院書記官長金子陸太郎殿

三聯

乙卯八月六日

明治廿四年十二月三日任拂命令第七九号

一金百六拾六円五拾七銭七厘 東久世通禧渡

但廿四年七月分歳費

右第二期帝國議會召集ニ应セサルヲ以テ歳費ヲ支  
給スルニモ、ニ無之調定難致ニ付別紙命令及ヒ証  
憑書共及御返戻候也

明治廿四年十二月十六日

會計主務官

大藏書記官山本豊躬印

任拂命令官

貴族院書記官長金子堅太郎殿

明治廿四年十二月三日任拂命令第七一九号  
一金百六拾六円六拾六銭七厘

東久世通禧渡

但廿四年七月分歳費

右第二期帝國議會召集ニ应ヒケルヲ以テ歳費ヲ支  
給スヘキモノニ無之旨ヲ以テ命令及証憑書共返戻相  
成候處副議長ハ議長故障アル片ハ議會開會ノ間  
ニ於テ仍其議院ノ事務ヲ指揮スルモノニシテ辭職ノ  
當日マテ事務局ニ出務セル已上ハ歳費ヲ支給シ差  
支無之義ト被在候條前命令ニ通調定相成度候也

明治廿四年十二月十七日

任拂命令官

貴族院書記官長金子堅太郎

會計主務官  
大藏書記官山本豊郎殿

五  
號

乾第 一七四號

明治廿四年十月三日任拂命令第七一九号

一金百六拾六圓六拾六錢七厘 東久世通禧渡

但廿四年七月分歳賞

右貴族院元副議長東久世通禧弟二郎帝國議會ノ召集ニ由リタルモノニ非ニテ以テ歳賞ヲ支給スヘキモノニテラズ因テ該任拂命令ハ之ヲ抹スルコトヲ得リニ裁トモ心得テ有之ハ段々進水也  
明治廿五年一月十九日

大藏大臣伯耆松方正義 裁可

貴族院書記官金子堅太郎殿

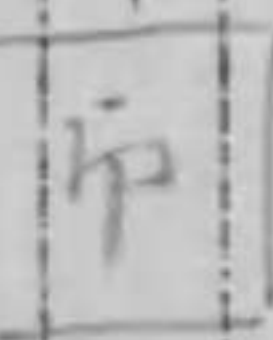
六  
號

曩、貴族院元副議長東久世通禧渡ニ係ル歳費給石  
ノ件照會ノ末支給シ可然トハ回答ヲ得詎仕拂令令  
相致レ屬今般本院所管大蔵大臣ヨリ亦二期帝國議  
會ノ召集ニ應シタルモノニ非サルヲ以テ歳費ヲ支給スベキ  
モノニアラサル旨ヲ達セラレタリ依テ猶熟考致シテ議  
院法第十一條ニ議長ハ議會開會ノ間ニ於テ仍議長ノ  
事務ヲ指揮ス第十三條ニ各議院ニ於テ議長故障  
アルトキハ副議長之ヲ代理ス第十五條ニ各議院ノ議  
長副議長ハ任期満限ニ達スルモ後任者ノ勅任セ  
ラル、マテハ仍其職務ヲ繼續スヘト之レヨリ凡ソ議員  
ハ每期召集ニ應シ始メテ議員ノ職務ヲ執ルモノナレハ  
其召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルヲ得リルハ當然ナ

レトモ議長副議長ハ全ク之レト異ナリ議會閉會ノ間  
又ハ任期満限ニ達スルモ後任者定マルテハ終始其  
職務ヲ執ラサルヲ得ス之レニ由テ是ヲ觀シハ議院法第  
十九條但書ハ議長副議長ニ適用スヘキモノニアラスレ  
唯議員ニ限ルモノニ似タリ且本件ハ議院法ノ解釈上ニ  
關シ將來ノ成規定例トモナルヘキ義ニ有之ヲ聞今一  
ハ詮議ノ上何分ノ指揮ヲ求ムハ極致度此段更ニ及  
ハ照會ナ也

明治廿五年一月廿五日

貴族院書記官長金子堅太郎



大藏大臣伯爵松方正義殿

七  
號

乾第三二七號

一月廿五日會第七號ヲ以テ東久世元副議長歳費ノ  
差ハ月去ニ照會ニ趣リ承左ハ客年十二月十日付  
休開令ニ對シ其際支給未成ノ點旨添付ニ付其  
其後同考スルニ正副議長ハ議院法第十九條但書  
ニ包含セザルモノトハ難ク解テ本年一月十九日乾第  
一七四號ヲ以テ任拂命令發布スルニ成限リ、世之旨更ニ  
申進次方ニ付今般同應ハ申越ニ趣ミ有之ヲ均共知  
支給シ付ラレリ奉ト承取可也此段更ニ、おとし  
水也

明治廿五年一月廿九日

大藏大臣伯爵松方正義殿

金子貴族院書記官長殿

元貴族院副議長伯爵東久世通禧  
歳費ハ支給スヘキモノトス

明治二十五年二月二十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

貴甲一

明治二十五年二月二十四日

内閣總理大臣

法制局長官

別紙貴族院書記官長具申ノ要點ハ貴族院  
元副議長東久世通禧ハ明治二十四年七月  
二十一日樞密顧問官ニ任セラレ同八月一  
日議員ヲ辞シタルモノ即チ七月三十一日  
迄ハ副議長トシテ其職務ヲ執リタルモノ  
ナレハ七月分ノ歳費ハ無論之ヲ支給スヘ  
キモノナリト云フニアリ而シテ之ニ對ス

ル大藏省ノ意見ハ同人ハ第二期ノ召集ニ  
應シタル者ニ非ラサルヲ以テ議院法第十  
九條ニ依リ之ヲ支給スヘカラサルモノナ  
リト云フニアリ仍テ之ヲ審檢スルニ議院  
法第十九條第一項但書ハ兩院ノ議員ニ  
ニ適用スヘキモノニシテ正副議長ハ貴族  
院書記官長ノ具申書中ニ詳悉セルカ如ク  
一般議員ト異ナリテ各々特別ノ職務ヲ有シ  
一旦其職ニ任セラレタル上ハ其任期ノ終  
リマテハ引續キ其ノ職務ヲ執ルモノニシ

テ他ノ議員ノ如ク年々召集ニ應シテ始メ  
テ其職ヲ執ルモノニアラサレハ在職中ノ  
年月ニ對シテハ無論歳費ヲ給スヘキモノ  
ト認ム

### 指令案

元貴族院副議長伯爵東久世通禧歳  
費ハ支給スヘキモノトス

明治二十五年二月二十六日

大藏省へ通牒

同。

參照

議院法  
法律第二號  
廿二年二月

第十一條  
議長、議會開會ノ  
間ニ於テ仍其ノ

議院ノ事務ヲ指揮ス

第十三條  
各議院ニ於テ議長故障スルトキハ

副議長之代理ス

第十五條  
各議院ノ議長副議長ハ任期満限ニ

達  
スル  
之後  
任者ノ  
勅任セ  
ラル、  
マテハ  
仍其

職務ヲ繼續スヘシ

第十九條  
各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓

副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及  
衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ケル所  
ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セザ  
ル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス  
議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得  
ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコト  
ヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外  
議院ノ定ケル所ニ依リ一日五圓ヨリ多クテ

カル手當ヲ受ク

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ  
其ノ同意ヲ經テ議會開會ノ間委員ヲシテ議  
案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歳費ハ毎年七月ヨリ  
翌年六月ニ至ル十二個月ヲ以テ一歲トシ計算ス

第二條 議長副議長及議員ノ歳費ハ其前六箇月分ヲ帝  
國議會通常會開會ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ

開會後七日以内ニ支給ス

第三條 議長副議長ノ歳費、其勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歳費、其勅任セラレタル前月分ヨリ支給ス

第五條 議長副議長及議員退職辭職除名ノ場合ニ於テハ其、當月分ヨリ支給ス

三月二十六日

陸軍召集條例召集旅費概算表ニ關スル件取扱方令ス

陸軍省訓令

陸軍省訓令甲第一號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

陸軍召集條例第百六十五條ノ召集旅費概算表ニ關スル件二十五年年度ニ限リ左ノ諸項ニ依リ取扱ハシム可シ

明治二十五年三月二十六日 陸軍大臣 子爵高島勲之助

一 後備將校同相當官及下士兵卒若干ハ本籍師團ノ充員ニ召集スルモノトシ旅費ヲ計算シ其區畫ニ合致ス

一 近衛師團ニ屬スル後備下士兵卒若干ハ近衛師團